

シリーズ わがまちの文化財へ3v

町天然 ナラガシワ

昭和44年11月20日指定

別迫にあるナラガシワは、根回り7.5m、胸高幹囲4.7m、樹高約23mの巨木です。

一部の枝が暴風などで裂け、切り取られています。樹勢は旺盛で見事な枝ぶりをみせています。ナラガシワは山地に生える落葉樹で、秋には数多くのどんぐりを実らせますが、一般的にどんぐりの実をつける樫の木とは種類が違います。町内で作られるカシワ餅には「サルトリイバラ」の葉が使われることが多いですが、通常市販のかしわ餅に使われるのがこの「ナラガシワ」の葉です。ナラガシワは、岩手県以南の本州・四国・九州に分布し、県内では沿岸部から吉備高原面と言われる世羅町から神石高原町、庄原市などに分布しています。

別迫のナラガシワは、現在確認されている中では、府中市上下町の河井のナラガシワに次ぐ大きさです。



シリーズ わがまちの文化財へ4v

町無形 宇津戸夏の神祇

昭和63年8月1日指定

宇津戸に伝わる夏の神祇は、延享年間（一七四四～一七四八）に始まったとされる祭事です。大干ばつに対して雨乞いを行ったところ、恵の雨を呼び、その年が豊作となったことから、奉納するようになったのが始まりと伝えられています。その後、嘉永四年（一八五二）に獅子舞を加え、現在の神祇となりました。

中世海裏庄うつつのしゅうは、地頭方と領家方と呼ばれる2つの勢力で二分され、それぞれに神社をもっていました。この祭事は両方の神社を周回するコースで行われ、踊り手や獅子舞、太鼓などが行列をなして練り歩き、数箇所での踊りなどの奉納をします。踊りは十五種類の踊りの中から9～10種類の踊りが踊られます。現在は2年に一度の開催が通常となっており、平成23年がその年にあたり、7月の最終日曜日に行われる予定です。（雨天の時には宇津戸小学校体育館で行われます。）

